

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2023年1月31日
明治大学の所属学部・研究科	国際日本学部・国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	4年生
帰国年月日	2022年12月28日
明治大学卒業予定年月	2024年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ
留学先大学	ペンシルバニア大学(日本語名) The University of Pennsylvania (現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2022年8月~2022年12月
留学先大学で在籍した学年	4年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名(日本語): (現地言語での名称): <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input checked="" type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 記入例:1 学期/4 月上旬~7 月下旬、 2 学期/9 月中旬~2 月上旬	1 学期:8 月下旬~12 月下旬 2 学期:1 月上旬~5 月上旬 3 学期: 4 学期:
学生数	≈24,800
創立年	1740

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (US\$)	日本円	備考
授業料	25,613	3,718,000 円	以下、\$1=145 円時、5 ヶ月で計算
宿舍費	6500	942,500 円	5 ヶ月
食費		30,000 円	学食(学費に含む)と自炊
図書費		0 円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費		8,000 円	
現地交通費		0 円	(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		0 円	
被服費		0 円	
医療費		0 円	保険加入のため
保険費		130,000 円	形態:
渡航旅費		560,000 円	
ビザ申請費		100,000 円	
雑費		30,000 円	遊ぶ暇、経済的余裕なかったため
その他		0 円	
その他		0 円	
合計		5,500,000 円	とてもヘビィだと思います。奨学金で 270 万円助成され、差分の 280 万円が自己負担。

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:羽田 目的地:ニューヨークの JFK(から Amtrack でフィラデルフィア) 経由地:ハワイ	
復路 出発地:ニューヨークの EWR 目的地:成田 経由地:LA	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:ハワイアン 料金:20 万 復路 航空会社:JAL 料金:36 万(雪で欠航後に間際でリザーブしたため) ∴合計:56 万	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:)	
<input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Expedia, JAL でしたが、マイルやサービスを考えると JAL 推しです。)	
<input type="checkbox"/> その他()	

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

 学生寮(寮の名前:) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

 個室 相部屋(同居人数)

3)共有部分

 バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

Penn の Off-campus Housing のサイト(担当者から案内される)

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

今年度より IGSP に参加する学生は、Off-Campus に住むことが決定したようです(これがいきなり伝えられたのはちょっとしたトラブルでしたが、自分で契約するのは本当にいい経験です。最後まで契約を読んで責任を持ってサインすることが本当に大切です)。

ですが、アパートメントは、適切に動けば渡航前に決定できます。以下が参考までの手順です。

- ①自分の予算や大学までの距離(=フィラデルフィアの場合は安全性)の理想を決める
- ②UPenn の Off-Campus Housing のサイトで条件に合わせて検索して、とにかくメールを送る
- ③返信のあったところから自分の希望の条件や疑問をぶつけて、とにかく不安要素をなくす(早く返信帰ってくる不動産は、トラブル時の対応なども早いと見るのが良いと考えています。)
- ④自分の最終意思決定をしたら、「しっかりと全て契約条件(Agreement や Contract)に目を通した上で」、サインをして費用を支払う

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院、学内の診療所)

 なし
 あり(治療を受けた場所:)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

 なし
 あり(問題の内容や相談した人等:)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

被害にあったことはないという前提で、以下に回答させていただきます。

基本的には、UPenn のセキュリティアラートを情報源としました。フィラデルフィアで何か起こるとメールで知らせてくれる大学が提供元の無料サービスです。ですが、キャンパスとアパートの距離が近く、キャンパス周辺に警察が多いことを理由に、いつも何かの恐怖に怯えながら生活しなければならぬ、という出国前の認識とは異なる心理的安全性の高い日常を送っていました。

その上で、とても有効だったのは、よりマクロな情勢についてリサーチを行うことと、どこか遊びに行く時(例えば、center city など)は友人と行くか、事前に「やばいところある?」と聞いて情報をインプットしておくことでした。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

ネット回線について、平常時において携帯キャリア(T-Mobile)とWi-Fiともに快適でした。検証必要だと思いますが、天気が悪い時に、日本との連絡がつきにくくなるというのは発生していました。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

私のケースは、日本で作ったクレジットカードが 3 枚あったのみで問題ありませんでした。現金は使用ケースが本当にないため、気休めで \$200 程度所持しておくというので十分だと思います。
また別の考えとしては、ある程度ドル円のレートが良い時にドルに換金して、現地の銀行口座に振り込むというのも全体的に見た時のコストを下げる意味では良い方法であったのではないかと思います。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

個々の生活に絶対必要なものは日本から一緒に持っていくことをオススメするという前提を置きます。広く言えば、自分の体質に合った「これじゃないといけない」もの系です。ですが、さすがはグローバル化が進んだ社会、意外とアメリカでも「日本生活用グッズ」(食や身の回りのもの)は買えました。個人的にはあまりこだわりがなく、現地にあるもので適応するか、、、というマイルドセットだったのが、良かったのではないかと考えています。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

明治大学に一度立て替える形でお支払いいただき、その後自分が明治大学にお金を返すという形でした。背景共有すると、トップユニバシティ留学奨励助成金 S に採択されていました。そのため、初期の支払いは両大学の担当者の橋渡しの役割を果たしながら、明治大学の担当者様に期日までに支払いをしていただきました。また自分が支払いを行ったのは、留学帰国後で、超過分を返金する形でした。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
4 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 3 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:正規生が履修登録した後に登録する形で、人気授業への登録が困難な面があります。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
MGMT223 Business Strategy	事業戦略論
科目設置学部・研究科	The Wharton School
履修期間	Fall2022
単位数	1 unit
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 2 回
担当教授	ルニ-教授: https://mgmt.wharton.upenn.edu/profile/saeroms/
授業内容	事業を成長させるため(=profit maximization)の戦略立案をケーススタディベースで学習する講義。profit のモデル式を元に、各要素に対して value creation, capture, sustain を実現できる打ち手を考える。
試験・課題など	評価は、学期中の課題で決定。課題は以下 2 種類。 Individual work: 毎週ビジネスケースのライティングと文献読了 Learning team's work: 2 個のグループプレゼンとライティング
感想を自由記入	この留学で最もタメになった講義でした。具体的な経験は最後のセクションで述べています。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
MKTG227 Marketing Strategy	マーケティング戦略論
科目設置学部・研究科	The Wharton School
履修期間	Fall2022
単位数	1 unit
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 90 分が 2 回
担当教授	ロバートソン教授: https://marketing.wharton.upenn.edu/profile/trobe/
授業内容	広義なマーケティング(ほぼ戦略立案や事業企画)について、事業や外部環境のダイナミズムを前提とした時に意思決定を通じて変化への適応をどうビジネス的に実現していくのかを、ケーススタディを通じて学習した。
試験・課題など	評価は、試験とケースライティング 2 本、グループディベートとプレゼンテーションで決まる。
感想を自由記入	著名な教授の授業には、多くの有名人(ハイブランドの CEO など)がきて、その方々とディスカッションをする機会が多かった点は刺激的でした。「意思決定をしろ」というのが先生の口癖で、単なる分析では怒られるほどで、示唆は何か、そこから何をアクションするのかをセットで考える姿勢を鍛えることができました。また、グループワークでは新規事業立案をして、VC にピッチするのでとても学び多かった印象があります。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introductory Statistics	統計学
科目設置学部・研究科	LPS (先生は、The Wharton School)
履修期間	Fall2022
単位数	1 unit
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	ヴェッカー教授
授業内容	基礎的な統計学で、範囲としては仮設検定くらいまで。
試験・課題など	2 週間に一回提出する膨大な量の課題(50 問くらい、全てソフトウェアで計算必要)と、中間・期末試験で評価が決定されます。
感想を自由記入	学費的に LPS の科目をとらなければ行けなかったため履修しました。基礎的な統計に関する理解がある場合は、履修は必要ないと考えます。もっと、UPenn にしかないような講義を履修する方がいいと思います。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Micro Econ	ミクロ経済学
科目設置学部・研究科	LPS
履修期間	Fall2022
単位数	1 unit
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	対面講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回
担当教授	ジョナサン教授: https://economics.sas.upenn.edu/people/jonathan-arnold
授業内容	基礎のミクロ経済学、でもその内容の細かさや説明の質は素晴らしかった。
試験・課題など	毎週与えられる課題(10 問ほど、微積分多少必要)と中間 2 回、期末 1 回で評価が決まります。
感想を自由記入	学費的に LPS の科目をとらなければ行けなかったため履修しました。基礎的な統計に関する理解がある場合は、履修は必要ないと考えます。ですが、先生はとても熱心な方で、発展的な質問をぶつけるといつも丁寧に考えを述べてくれました。その点、とても有意義な時間でした。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

沢山ありすぎる、調べると簡単に見つかるの理由から、自分に適したものを見つけるのが良いと思います。

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

NA

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

就活と留学の両立は大変であったというお話です。簡潔に述べますが、忙しい課題づけ生活に加えて、深夜時間にしか開催されない就活イベントに参加すると、寝る時間がなくなります。実際に体験してみると、留学前に企業との関係性を構築して、個別に時間設定してくれるなどで上記の状態にならないようにするのが良いと感じています。(ホスキャリなどにも積極的に挑戦されると良いと思いますが、機会費用の考慮が必要です)。

就活はやるやらない論は判断が難しいですが、留学を主軸に時間が余ればやるくらいのスタンスで良いと思います。特に UPenn の学生はバンバン内定をとっていきますが、それに影響されすぎずに自分のやりたいことを貫いてほしいと思います。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

NA

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

NA

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

NA

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	休学、TOEFL 勉強、
	10月～12月	選考
留学開始年	1月～3月	長期インターン、UPenn への申し込み開始
	4月～7月	長期インターン、Admission letter ゲット、各種手続き開始
	8月～9月	長期インターン、8月下旬に出国
	10月～12月	Fall semester を全力で過ごす。
留学/帰国年	1月～3月	1月はじめに帰国
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

このほかにも事務室に提出した体験記系の資料があるので、適宜ご覧いただくと幸いです。連絡は繋がられるようにしているので、詳しい話が聞きたい方は事務を通じてお教えてください。

やはり留学は自分にとって価値あるものでした。

まず、大学生活で感じた価値です。ペンシルバニア大学の世界トップのビジネススクールでの学習はとても刺激的なものでした。学習内容については、一步引いてみると日本の大学で教わる内容と大差はありません。ですが、学習方法が根本的に異なります。この点が本当に興味深く、自分の成長につながったと考えます。教授や学生の間では、” We do learn concepts and frameworks. But do not apply them for the sake of applying. We are at the Wharton. Be professional. Think with them of the decision to be made.” の意識が共有されています。つまり、実践(=意思決定をすること)を通じて学ぶことがメインということです。これは日本の大学では経験できたことはありません。その実践についても、多くの種類があります。例えば、毎週課されるライティングで、企業が取るべき事業戦略について 2000words 以内で提案するもの。または、ラーニングチーム(MBA では一般的な学習方法)を組んでスタートアップへの事業戦略立案を行い、ドキュメンテーションとプレゼンテーションを行うなど。とにかく、アカデミックとプラクティカルの間を置いて、インテンシブな学習を日々こなしていくことが求められます。また、これらの学習を共に行う人材についてもとても貴重であると考えます。例えば、教授は世界的に有名な方であったり、誰もが知っている企業を渡り歩いた経験のある方であったり。一緒に授業を受ける学生は、とにかくなんでそんなに頭が切れるのかと度肝を抜かれる方であったり、すでに事業売却を終えてシリコネアになった方であったり。そして外部からゲストスピーカーが来れば、それはグッチやティファニーといった大企業の CEO であったり。つまり、ペンシルバニア大学、特にウォートンビジネススクールで勉強を行うことは、これだけの高い質と幅広いネットワークに参加できることを意味していて、これは留学という意思決定をしないうで得られるものではないと思います。自分のこれからを考えて、成長の環境としてペンシルバニア大学を選び、これまでの経験やそこで得たスキルを強みとして持ち、とてもハイレベルな環境においてその力を発揮して貢献をし、インプットとアウトプットにて学習成果を相互的に高めていく。この経験ができることは、価値そのものであると考えます。

そして、異文化との接触、理解、適応から感じた価値です。日本で 22 年間育った留学生として、このアメリカ、ペンシルバニア大学の地で今何を求められているのかという点について、日々考えさせられています。今の答えは、ありがちですが“個であること”であると考えます。そもそも日本人であることは、少なくともペンシルバニア大学ではユニークであると判断されます。日本企業についての意見や、日本からみた海外の企業について意見を求められる機会は人よりも多くあります。アメリカに来たからと言って、日本人であることをレバレッジにできなくなることはありません。ですが、代表的な日本人であると、アメリカで上手く適応しなければならない点があると思います。それは、個であるだけでなく、個として主張することです。戦略論の授業のイントロで、先生がこんな言葉を言いました。“If you don't participate in class, you are nothing. Shame on you.” この言葉を聞いて何を思うかによって、現地でやらなければいけないことが変わってくると思います。意見がある、疑問がある。それだけでは価値がなく、主張し、他者との意見とコッティングしていかなければならないという意識がとても強いです。同質性ではなく、異質性を価値とする社会でサバイブする力を模索しながら身につけていくことは、物事的前提が頻繁に変化する今後の将来で生き抜く上でも役立つと思います。海外で生活すること自体が価値であると考えます。

留学を目指す皆さん、まずぜひ自分なりの考えを持って留学に挑戦してみてください。これが最も伝えたいメッセージです。

2021 年を境に、留学の意義は変わったと考えます。円安やインフレ、多方面で緊迫する世界情勢といったようなダイナミックな環境で、留学をすることはとても大きなリスクです。私自身、当初 1 年間の予定だった留学を経済的な理由で半期することになりました。自分にとっての、留学のモチベーション、留学の目的、留学の価値のある在り方はどんなものであるのか。これらについて、日常レベルで様々な情報をインプットしながら、考えを修正しより良い意思決定を行うことが求められます。とても大変そうだなと思った方、、、大正解です。ですが、個人的にはとても興味深い体験であり、価値があり、自己の成長につながる機会であると考えています。

明治大学から奨学金をもらって、世界トップの大学で学習できる経験は、本来したくてもできないものです。ぜひ挑戦してほしいと思います。ぜひ最高の半期、1 年にしてください。世界のあらゆる危機が落ち着いて、安定的に留学できるようになる日が早く来ますように。